



学校だより

令和3年9月30日

国分寺市立第三小学校

NO. 481

校長 古林 香苗



特別支援教育のさらなる充実へ向けて

副校長 前多 紀子

2学期が始まって、一か月が経ちました。9月には緊急事態宣言が再延長され、学校公開も延期させていただきましたが、今後も、子供たちへの感染の拡大防止と、どのような状況下にあっても学びを止めない取組、そして、保護者や地域の皆様に子供たちの日々の日常の様子の積極的な発信に努めていきたいと考えています。

さて、先日作成した学校評価（中間評価）について子供たちに実施したアンケートで若干低めの評価となったのが、特別支援教育についての項目です。「こすもす教室について理解している」という問いに対して、3割弱の児童が「よく分からない」と答えていました。2年生は昨年度、そして1年生は1学期にこすもす教室の巡回教員による出前授業を行い、「こすもす教室がどんなことを学ぶ場所か」について学びましたが、理解を深めるには、時間をかけ計画的、かつ継続的に教え続けることが大切だと感じました。

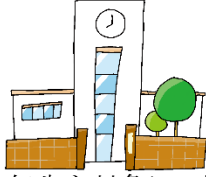
今年度はこすもす教室を広く周知するための取組として、特別支援教育だより「十色」の発行や、ブログに日々の教育活動の様子をアップしています。また4月の保護者会では、こすもす教室について巡回指導教員からご説明をさせていただく時間を頂きました。

こすもす教室では、学習の補充ではなく、コミュニケーション能力の育成等を図っています。得意な分野をさらに伸ばし、苦手なことを少しでもできるように、『個別最適な学び』を自分により合った学習法として、こすもす教室への通室を選んで来室しています。一人一人の個性や課題に合わせた教育を行うことで、通室により子供たちは大きく成長します。先日嬉しい出来事がありました。休み時間に廊下で泣いている子がいて、そこへこすもす教室での学習を終えて偶然通りかかった子が「大丈夫だよ」とやさしく声をかけていたのです。そのまま通り過ぎてもおかしくない状況で、相手の気持ちに寄り添い声を掛けている様子から、その子の大きな成長を感じました。

特別支援教育は「特別な支援」を行う教育ではありません。すべての子供に寄り添い、その子に合った教育を行うことを目的としています。一人一人顔が違えば、考え方や感じ方も違います。その全てを丸ごと受け入れてもらうことで、初めて子供は安心して自分を出すことができます。友達にも教師にも受け入れられているという安心感と、居心地の良い場所をつくっていくことは学校としての使命です。学校の経営計画にある「明日も行きたくなる学校」を実践していくために、今後も一人一人に寄り添った指導を目指してまいります。

《お知らせ》

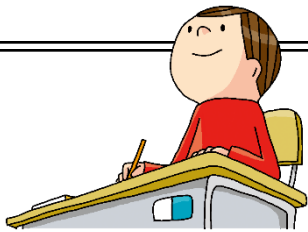
2学期より、学校だよりを学びポケットでも配信を始めました。現在は紙媒体でも配布しておりますが、令和4年度へ向けて、学びポケット配信のみの発行に移行していきたいと考えております。ご希望の方には今まで通り紙媒体でのお渡しも可能です。また、その他のお知らせ関係の配信についてもいろいろとご意見を頂いています。「学びポケット」「一斉メール」「ブログ」等、皆様のお声を生かしながら、より良い発信方法を構築していきたいと思っております。



全国学力・学習状況調査の結果

教務主幹教諭 高遠 洋一

6年生を対象に、国語・算数及び意識調査を行いました。国語・算数共に全体的に全国平均・都平均を上回りました。国語の「思考力・判断力・表現力など」では、全国平均を大きく上回り、算数の「知識・技能」「思考・判断・表現」では全国平均を上回りました。一方、国語「知識・技能」では、全国平均をやや下回っており、漢字の定着に課題が見られました。意識調査では、将来なりたい姿や友達との関係性についての質問に対して、概ね肯定的な意見であることから、学校生活を落ち着いて過ごすことができていることが分かりました。一方、「失敗を恐れずに挑戦する。」「自分の思いを言葉で表す。」という質問では、自信をもって交流をすることが苦手な児童が多いことが分かりました。この調査の結果を基に、子供たちの長所を伸ばし、苦手なところを克服できるよう教員一同指導に尽力していきます。



授業改善推進プランの作成

教務主任 小林 信嗣

今年度は、目指す授業を『「個別最適化された学び」の実現を図り、児童の学力の定着を図る～ICT機器の活用と小学校教科担任制の趣旨を生かした、児童の意欲を引き出す授業～』とし、全国学力・学習状況調査、各学年における日常の学習状況から、「令和3年度授業改善推進プラン」を作成しました。そして、各学年の学習状況に応じ、教科ごとの授業改善推進プランを策定いたしました。

このプランを基に今後は授業改善を進めてまいります。詳細は、国分寺市公式ホームページ→暮らしの情報→各小学校の紹介→第三小学校のページに掲載しておりますので、是非ご覧ください。



こすもす教室より



こすもす教室 稲村 望

7月の小集団コミュニケーションの時間では、パラリンピックの種目でもある「ボッチャ」を行いました。ジャックボールという白いボールに、赤・青それぞれのボールを投げたり、他のボールに当てたりして、いかに近付けるかを競うスポーツです。上から投げて下から投げても、蹴ってもよい、老若男女、障害の有無を問わず、すべての人が一緒に競い合えるスポーツです。

<目的>・ルール理解 ・ルールを守る心地よさを味わう ・勝敗の受け入れ
・気持ちや考えを言葉で伝える ・相手の意見を聞く ・力の調節

子供たちもチーム戦を行う中で話し合いをしたり協力したり、互いを励まし合ったりしながら白熱した楽しいゲームができました。



副籍交流

特別支援コーディネーター 志水 美智子

副籍交流とは、特別支援学校に通っている子供たちが、住んでいる地域の通学区域の小学校に副次的に籍をもち、学校行事や教科における交流や学習を行う活動です。

三小では、都立武蔵台学園に通う児童と年に数回の交流を行っています。今まで、総合的な学習の時間のパソコン練習や理科の実験、給食や休み時間の遊びを通して交流を深めてきました。今年度は1学期に水泳の授業に参加し、三小の児童と一緒に検定を受けました。

副籍交流を通して、「相手を理解すること」「相手を思いやる気持ち」が三小の児童に自然に身に付いてくれればと思います。

道徳コラム ～3年生の学習から～

第3学年 捧 杏奈

3年生では、「一さつのおくりもの」を学習しました。この学習のねらいは、相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする心情を育むことです。被災地にお気に入りの絵本を送る主人公の「くまた」に寄り添い、学習を進めました。子供たちからは、「思いやりのある言動はされると嬉しくなる。絵本をもらった動物も喜んでいると思う。」と、思いやりを受け取る側の気持ちが多くあげられました。贈り物を送った側も「明るい気持ちだと思う。」という発言から、思いやりを贈る側の思いにも触れ、意見を交流して考えを広げました。「思いやりのある行動をすることで自分の気持ちも明るくなる。だから行動するのだ。」という意見も出ました。今後も児童同士の意見の交流を通して、考えを広げられるようにしていきます。

一人1台タブレットを活用して

第4学年 大島 文子

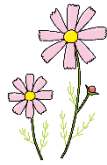
4年生では、社会や総合的な学習の時間、音楽を中心に、タブレットを活用した授業を行っています。1学期にタブレットを配布したばかりの頃は、ログインやアプリの起動など一つ一つに時間がかかっていた子供たちでしたが、今では Teams で配布した資料を見ながら調べ学習をしたり、宿題でまなびポケットのドリル教材に取り組んだりしています。

2学期は PowerPoint を活用してのまとめ学習や、Forms のアンケート機能を用いた係活動にも挑戦していく予定です。自分の欲しい情報にすぐにアクセスできることや、自分の発信した情報がみんなに届くことに子供たちは喜びを感じている様子です。子供たちの「できた」「わかった」につなげる手段として活用できるよう、情報モラルの指導と併せて担任一同試行錯誤を重ねながら進めていきます。

《りんどうの花》

長野県人会の方より、素敵なりんどうの花をいただきました。校長室と正面玄関に飾らせていただきました。長野県人会の皆様、ありがとうございました。





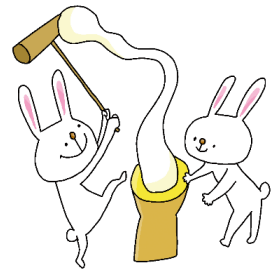
10月の行事予定



月	火	水	木	金	土	日
				1 三小人権週間 (終)	2	3
4 全校朝会 委員会活動	5	6 研究会のため 4時間授業	7	8	9	10
11 クラブ活動 学校運営協議会	12	13	14	15	16	17
18 読書週間(始)	19	20 研究会のため 4時間授業	21	22 読書週間(終)	23	24
25	26	27	28 就学時健診のため 4時間授業	29	30	31

※予告なしの避難訓練があります。

スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー出勤日
 スクールカウンセラー：7日、14日、21日、28日
 スクールソーシャルワーカー：14日



《学校運営協議会について》

10月11日(月)11:30～ ランチルームにて学校運営協議会を開催します。傍聴をご希望される方は8日(金)までに副校長へご連絡ください。

《赤い羽根共同募金へご協力をお願い》

10月1日(金)～29日(金)までの1か月間、赤い羽根共同募金を実施致します。ご協力をいただけるご家庭は職員室(副校長)までお願いします。募金していただいた方には赤い羽根をお渡しします。

《体罰の根絶に向けた取組について》

7月に教職員対象の体罰防止研修を実施しました。いかなる理由があっても体罰は許されるものではないということを全教職員で再確認し、今年の三小の体罰防止宣言を決定しました。

体罰防止宣言「一人で抱えず、すぐ相談 チームで解決、複数対応」

「チーム三小」としてこれからも課題解決を図ってまいります。